

関 ふん尿の表面散布は散布量と雨量、蒸発水準との関係を計算しているようですよ。

大沼 普及所の態勢といますか、行政と現場農家とのつながりですが、あの広大なところで大変スムーズに密着しておこなわれていることも特に別海の新酪では印象的でした。あれでこそ農家も多額の投資による大事業にも自信をもって対処して行けるんだなあと。

北海道の酪農が今後とも日本酪農の先導的役割を果たして下さるように切望いたします。

金川 新酪は国の多額の投資による大型プロジ

ェクト事業であり、入植後の指導は道にありますので、関係の普及所、試験場もその達成のために農家の人達と共に真剣に取り組んでおります。昨年入植して2年目という新しい時点での新酪を覗いていただき、また短日時での道東の酪農視察でしたが種々のアドバイスをいただきまして有難うございました。今後の御助言と再度の来訪を期待いたします。

三浦 種々貴重な御意見をいただきまして有難うございました。

牧草で土を作ろう

(雪印種苗のアピール)

そして乳は土地から搾りましょう

草地更新—輪作—緑肥

◎老朽化草地の更新

低収、低栄養（ミネラル不足）と冬枯れ被害回避のためにもせいぜい6~7年で更新しましょう。

◎輪作の励行

草地更新—とうもろこし—根菜類—草地と、輪作励行で地力を増強しましょう。草地60%、耕作飼料（とうもろこし、根菜、麦類等）40%前後の作付比率で乳飼比を下げ、産乳を高め、所得率の高い経営例が最近増加してきました。

◎緑肥の活用

土地への糞尿還元と共に牧草根を含めた緑肥の鋤込みで、どの圃場もミミズ等の土中動物、微生物の棲息できる土地に改良しましょう。

飼料の高位生産と地力増進を併行する輪作の1例

(草地型地帯) (青森県)

牧草	牧草	牧草	牧草	牧草	牧草	1番牧草収穫後か	とうもろこし	春播牧草
全耕地の $\frac{1}{9}$	$\frac{1}{9}$	$\frac{1}{9}$	$\frac{1}{9}$	$\frac{1}{9}$	$\frac{1}{9}$	または前年 秋耕起とう もろこし	$\frac{1}{9}$	$\frac{1}{9}$

←————— 牛尿散布 —————→ ←————— 堆厩肥投入 —————→